部分電離プラズマ中の無衝突衝撃波

大平 豊 (青山学院大学)

超新星残骸の周りの水素原子

----- 内容 -----

電離過程を取り入れたプラズマ粒子 ハイブリッドシミュレーション

まとめ

Ref: Ohira, MNRAS (2014), Ohira, PRL (2013), Ohira, ApJ (2012)

超新星残骸の周りの水素原子

超新星残骸周りのガスの電離度は~0.5

Ghavamian et al. ApJ 2000, 2002

超新星残骸は、銀河宇宙線の起源 タイプ la 型 or II型?

ISMの中 or スーパーバブルの中?

宇宙線のエネルギースペクトル

標準的な衝撃波加速理論はdN/dE∝E-2

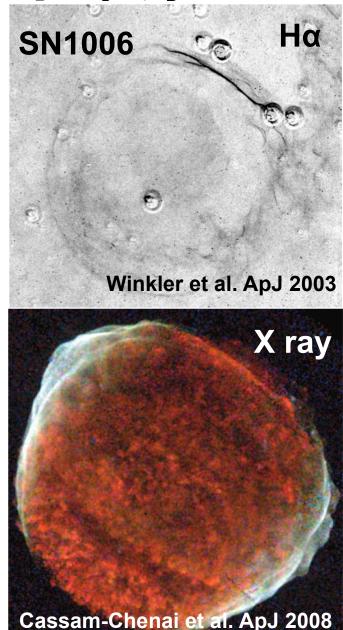
銀河宇宙線や超新星残骸の観測は dN/dE∝E^{-2.1}-E^{-2.4}

加速機構への注入問題

銀河宇宙線の観測からは、 $E_{CR}\sim 0.1E_{SN}$ どのようにして加速過程に入るかは謎

無衝突衝撃波の構造

衝撃波の速度構造や磁場構造は謎



ハイブリッドシミュレーション

$$\frac{d\vec{x}_{i}}{dt} = \vec{v}_{i}$$

$$\frac{d\vec{x}_i}{dt} = \vec{v}_i$$
 , $m_i \frac{d\vec{v}_i}{\partial t} = e \left(\vec{E} + \frac{\vec{v}_i}{c} \times \vec{B} \right)$

$$0 = \frac{d}{dt}(m_{e}n_{e}\vec{u_{e}}) = -en_{e}\left(\vec{E} + \frac{\vec{u_{e}}}{c} \times \vec{B}\right) - \vec{\nabla}p_{e}$$
$$n_{i} = n_{e}$$

方程式

$$\frac{\partial \vec{B}}{\partial t} = c\vec{\nabla} \times \vec{E}$$

$$\frac{\partial \vec{B}}{\partial t} = c\vec{\nabla} \times \vec{E} \quad , \quad \vec{E} = -\frac{\vec{u}_{\rm i}}{c} \times \vec{B} - \frac{\vec{B} \times (\vec{\nabla} \times \vec{B})}{4\pi e n_{\rm i}} - \frac{\vec{\nabla} p_{\rm e}}{e n_{\rm i}}$$

u,とn,は粒子の x,とv,から 求める.

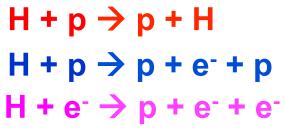
水素原子の電離過程 (H, p, e-)

Charge exchange with proton

Collisional ionization with proton

Collisional ionization with electron

Collisional ionization with hydrogen atom $H + H \rightarrow p + e^{-} + H$



Barnett (1990) CE with p Janev & Smith (1993) CI with p 10⁻⁷ CI with e CI with H 3 ν [cm³ / s] 10⁻⁸

v_{rel} [cm/s]

(Heの反応は追加予定)

$$\frac{v_{\rm ce}}{\Omega_{\rm cn}} \approx 10^{-5}$$

$$\times \left(\frac{\sigma V}{10^{-7} \text{cm}^3 / \text{s}}\right)$$

$$\times \left(\frac{\mathsf{n}}{\mathsf{1cm}^{-3}}\right) \left(\frac{\mathsf{B}}{\mathsf{3}\mu\mathsf{G}}\right)^{-1}$$

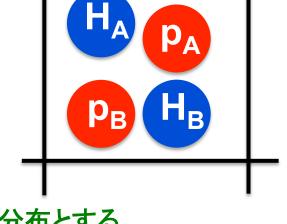
人工的に

$$\frac{v_{\rm ce}}{\Omega_{\rm cp}} \approx 10^{-2}$$

ハイブリッドコード内での電離 (1)

水素についての電離の計算(H₄について)

①同じセルにいる粒子を特定する $H_B, p_A, p_{B, e_A}, e_B$ 電子は、陽子と同じ数とする



- ② H_A との相対速度を計算する 電子Maxwell 分布とする $<v_{e.}> = <v_p>$, $T_e = 0.01T_{sh}$ を仮定 $|v_{HA} v_{HB}|$, $|v_{HA} v_{pA}|$, $|v_{HA} v_{pB}|$, $|v_{rel,HAe-}| = ((4/\pi)v_{th,e-}^2 + v_{HA}^2)^{1/2}$
- ③散乱断面積 σ_{CE} , $\sigma_{CI,p}$, $\sigma_{CI,H}$ and σ_{CIe} から、反応確率を求める $P_{CI,HAHB}$, $P_{CI,HAPA}$, $P_{CE,HAPA}$, ..., $P_{CI,HAe}$.
- ④乱数により、どの粒子と、どの反応でH_A水素が電離するか、 または電離しないかを決める. 電荷交換反応の場合、反応した陽 子が水素原子になる

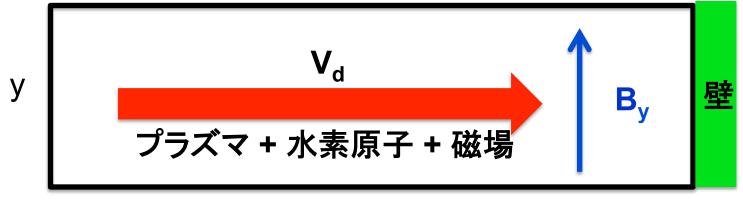
シミュレーションパラメター

 $L_x \times L_y \sim 2 - 6 \times 10^4 \text{ c/}\omega_{pp} \times 400 \text{ c/}\omega_{pp}$

 $\Delta x = \Delta y = 0.5 - 1 \text{ c/}\omega_{pp}$, $\Delta t = 0.004 - 0.0125$ $\Omega_{cp}^{-1} \sim 10^{-4} \text{ v}^{-1}$ 16個の水素原子 と 16個の陽子 / 1セル

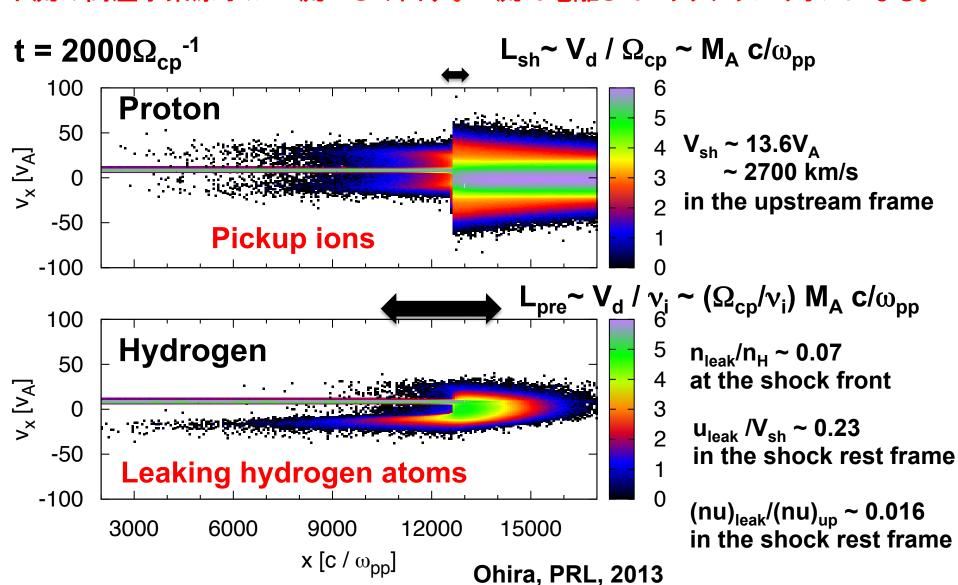
$$eta_p = eta_H = 0.5$$
 , $n_p = n_H$, $B_0 // e_y$ $V_d = 10 - 30 \ V_A$, $V_d = 1 - 2 \times 10^3 \ km/s$

2次元のシミュレーション平面

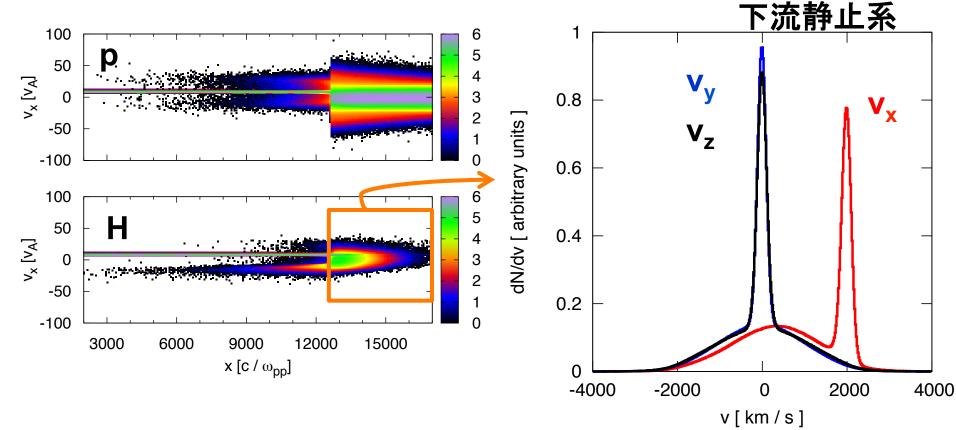


位相空間図 (M_A=10 , V_d=2000km/s)

下流の高温水素原子が上流へしみ出す。上流で電離してピックアップイオンになる。

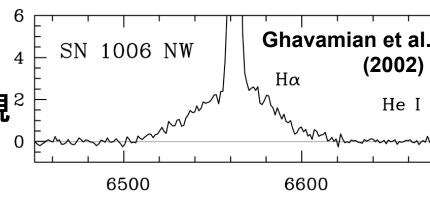


水素原子の速度分布

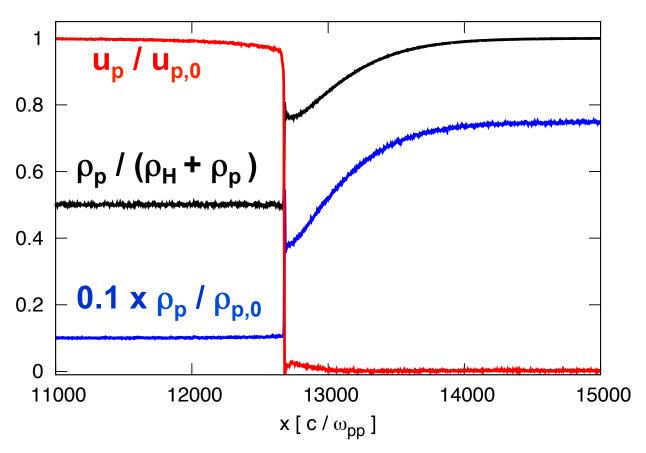


幅の狭い成分と広い成分が存在

観測されているHα 輝線の構造を再現²



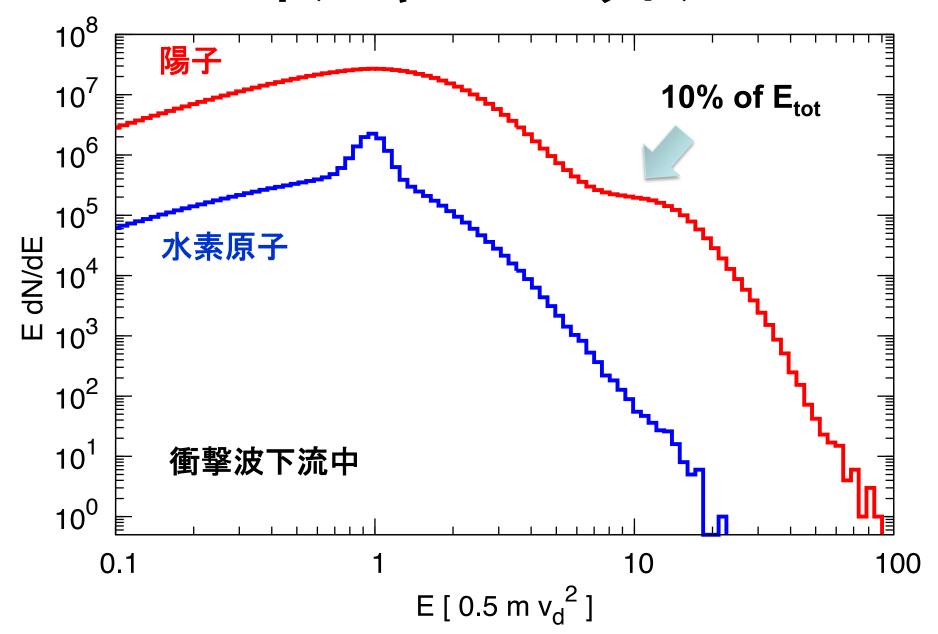
衝擊波構造



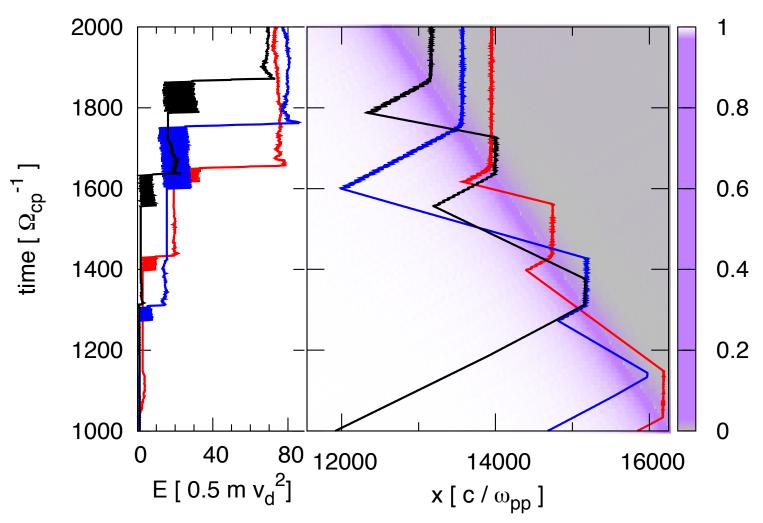
$$r_{sub} = 3.47 \qquad L_{pre} \sim 10^{15\text{-}16} \text{ cm } n_{1/cc}^{-1} \\ < r_{tot} \qquad L_{diff,Bohm} \sim 10^{15} \text{ cm } u_{sh,3000km/s}^{-1} B_{100\mu G}^{-1} E_{TeV}$$

この速度場中で衝撃波加速が起きると、E-2よりソフトなスペクトルになる

エネルギースペクトル



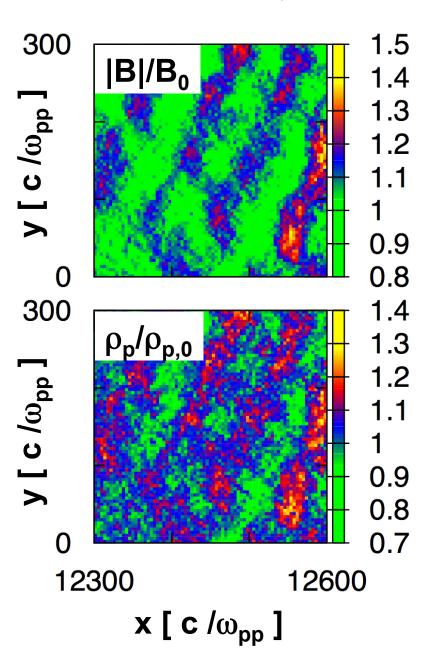
加速された粒子の軌跡



下流からしみ出した水素原子は、上流でのピックアップと、二回目の衝撃波加熱により、初期の10倍にまで加速される。

水素原子は、衝撃波加速の注入に重要!

磁場と密度(上流領域)



 $|B| \ge \rho_{\rm D}$ は相関 \rightarrow Fast mode

 $\delta B / B_0 \sim 0.5$

Drury instability? Chalov 1988) 拡散する粒子が必要。 でも、Pickup ionは磁化している。

P_⊥/P_{||} > 1 は、slow mode と Alfven mode を励起する。

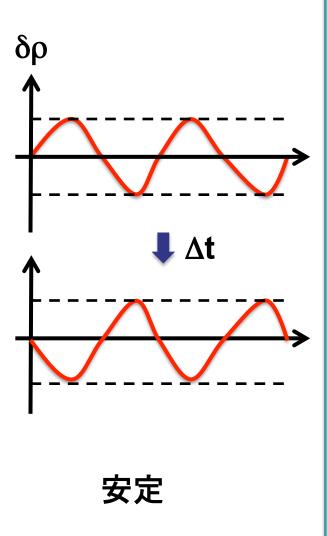
新しい不安定性

Ohira, MNRAS, 2014

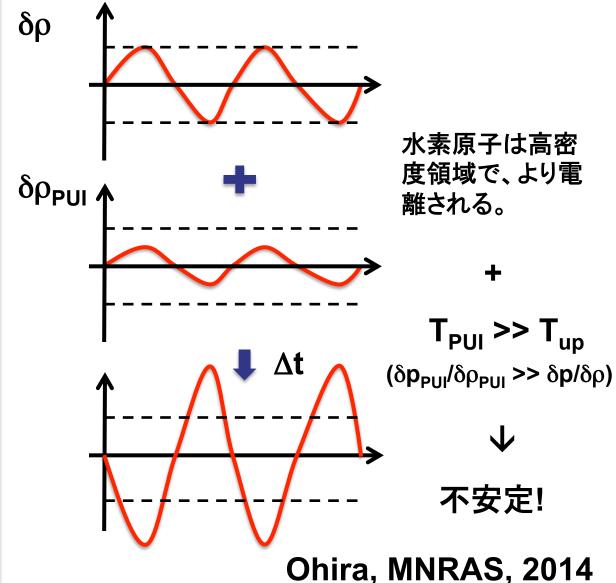
(Drury & Falle, 1986)

音波不安定性の物理機構

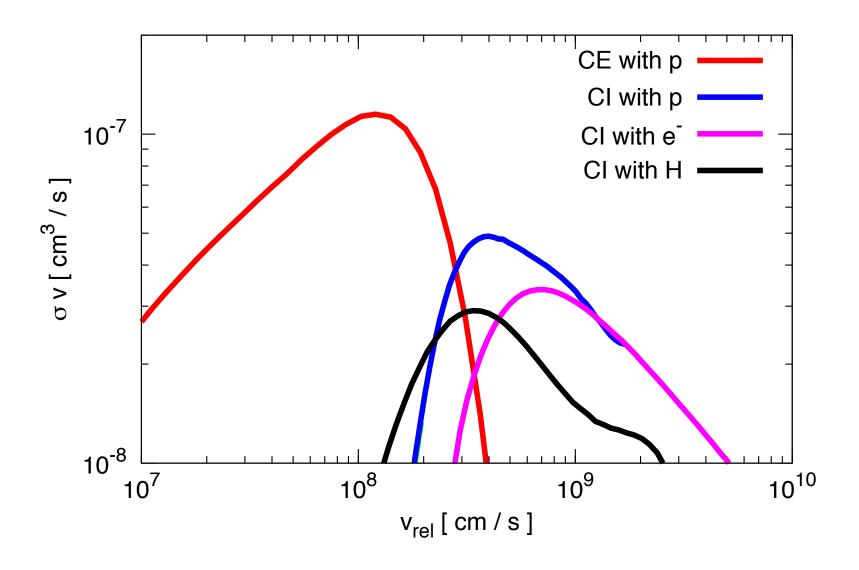
安定な音波



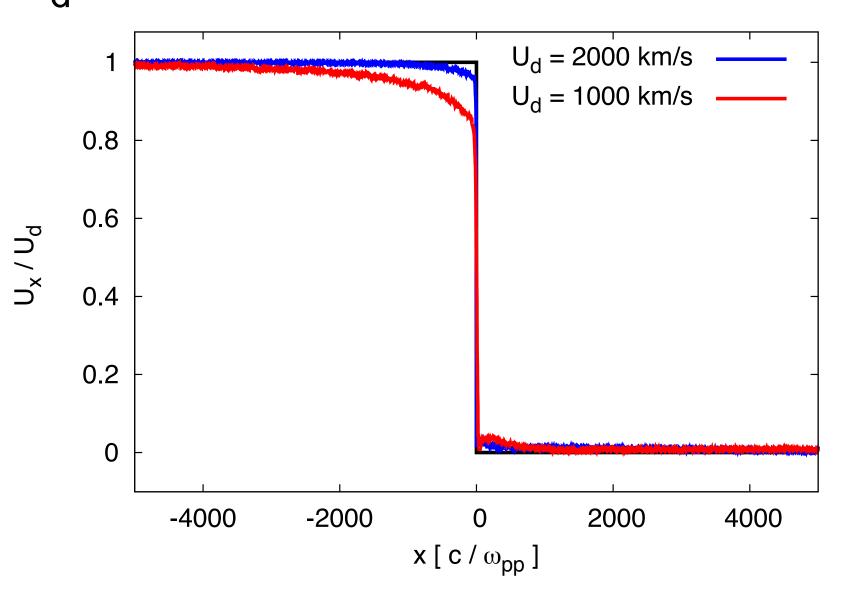
電離による Pickup ions の注入がある場合



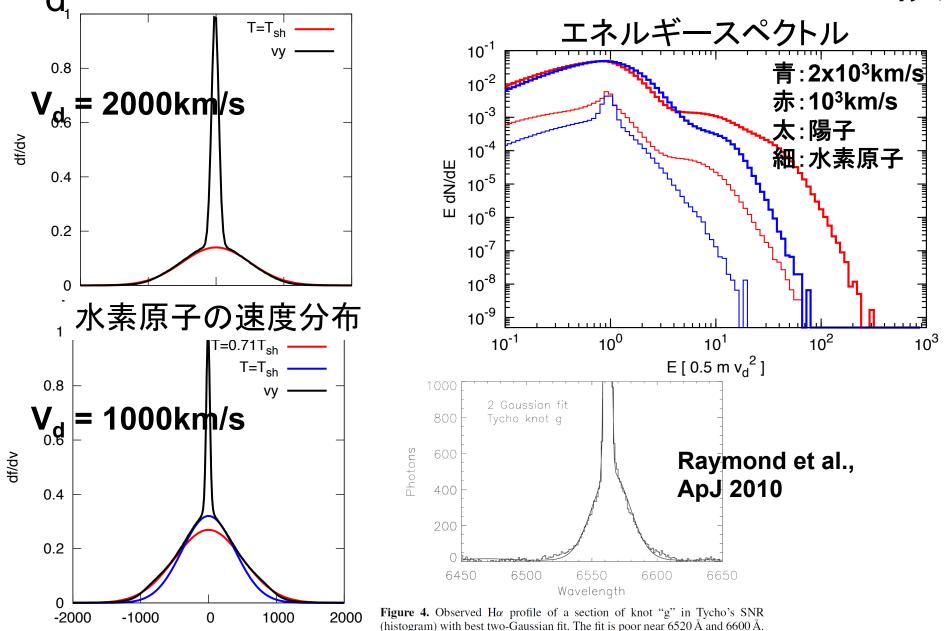
V_d = 1000 km/s と 2000 km/s の比較



V_d = 1000 km/s と 2000 km/s の比較

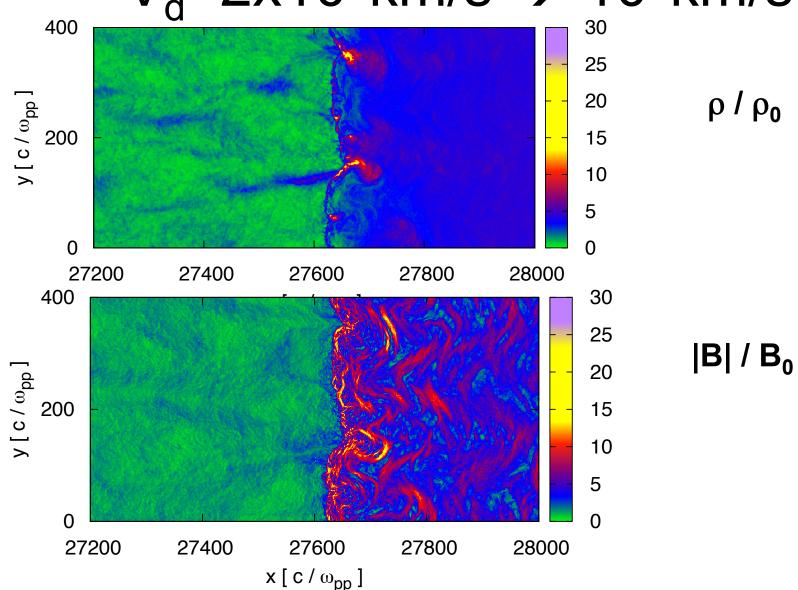


V_d = 1000 km/s と 2000 km/s の比較



v [km /s]

$M_A = 10 \rightarrow 20 \text{ and}$ $V_d = 2x10^3 \text{km/s} \rightarrow 10^3 \text{km/s}$



まとめ

SNRの周りの星間ガスは必ずしも完全電離状態ではない。

部分電離プラズマ中を伝搬する無衝突垂直衝撃のハイブリッドシミュレーションを世界で初めて行った。

下流の高温水素原子が衝撃波上流へしみ出す。

上流へしみ出した水素原子は、上流で電離してPickup ionになる。

Pickup ionは、衝撃波構造を変える。

Pickup ion は上流でプラズマ不安定性を励起する。

不安定性によってできた $\delta \rho$ が、衝撃波下流で磁場を増幅する

しみ出した水素原子は加速される。

今後の予定 : 3D and M_A = 100